

令和6年度在学生特待生に 保育士養成課程所属の中村優来さんが 選ばれました！

在学生特待生制度は、3・4年次生（新入生特待生を除く）を対象に、学業又はスポーツの成績が特に優れ、品行方正な学生を選考し、毎年度表彰を行っているものです。中村優来さんは3年生（写真中央）。経営学と保育士資格の単位修得を両立させながら、優秀な成績を修めました。令和6年度表彰式にて佐野経営学部長・高橋スポーツ科学部長から特待生証書が手渡されました。



「保育士養成塾」2025年度開設！

2025年度から「保育士試験」での合格を目指す「保育士養成塾」が開設されます。経営学部の学生だけでなく、スポーツ科学部の学生も受講できる全学的な取り組みです。学生は無料で受講が可能で、対面での講義だけでなくオンデマンドによって学習内容の定着を図るなど、合格のための手厚いサポート体制を備えています。さらに、実技試験対策は、本学の保育系の教員が担当するため、保育の領域に関する専門的な学修ができることが大きな特徴となっています。本学ならではの「マネジメントができる保育士」、「スポーツ保育ができる保育士」の養成を目的に、保育士養成課程から次のステップへと展開していきます。

※保育士養成課程は2027年度末をもって設置取り止め（予定）となります。

学窓便り

学窓の風景－自然は教科書－

自然は最高の教科書。古今東西の識者が口にしてきた言葉です。造形表現や美術も同様です。造形要素「形」「色」「材質」は我々の視覚を超えて、様々な技法や媒体を通して現出し、その美しさや価値を示してくれます。私たちは時に自然の多様性や相同性、深遠な豊かに触れ、我もまた自然物であったことに自戒し、人間らしさを取り戻します。「保育内容の理解と方法（造形Ⅱ）」では草木染に取り組みます。晒を美しいピンク色に染めたのは枇杷。葉も花も実もピンク色ではありません。枯れて変色した枇杷の葉に秘められたピンク色を誰が想像したのでしょうか。



－ センター長が交代しました －

このたび、保育研究センター長に就任いたしました。保育研究センターでは、教員それぞれの専門分野であるスポーツ保育、音楽表現、美術教育、社会福祉、心理学などを切り口に、日々研究と教育に取り組んでおります。今後も研究や実践を重ねていच्छる皆様と協働の機会をもち、これからの子どもたちの成長を支え、応援したいと考えています。ぜひ、「こんなことしてみたい」、「この問題について考えてみたい」など、ご意見・ご要望をお寄せください。

保育研究センター長 入江真理



ニュースレター Vol.5
2024年11月1日発行

News Letter 5



保育研究センター

〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1

TEL 0538-37-0191(代表) FAX 0538-36-8800 <https://www.ssu.ac.jp>

本年度も保育士等キャリアアップ研修を開催しました

今年も、保育士等キャリアアップ研修を磐田キャンパスにて開催しました。これは昨年度から、磐田市より委託を受け、磐田市・袋井市・掛川市・菊川市・森町4市1町連携事業として開催しているものです。本年度は「障害児保育」、「食育・アレルギー対応」、「マネジメント」の3分野を開催しました。保育士等キャリアアップ研修は、平成29年に厚生労働省が保育士のキャリアアップと処遇改善とともにリーダー的職員を育成することを目的として制定したもので、7分野あります。1分野当たり、15時間の受講が必要になります。

「障害児保育」は川端奈津子准教授が、「食育・アレルギー対応」は日隈美代子講師が、「マネジメント」は山田悟史教授が担当しました。受講者は、4市1町の保育所・認定こども園・幼稚園・地域型保育事業及び認可外保育施設等に勤務する保育士および職員の皆さんです。

保育所等の現場では、なかなか他の園の様子について知る機会がありません。そのため、できるだけグループワーク等を多く取り入れたり、実際の事例を取り上げたり、実際に演習を行ったりして、日々の保育に直結した学びができるよう工夫しました。教室は毎回とても熱気に包まれていました。

研修分野	開催日
------	-----

障害児保育 担当 川端

障害の理解	7月 27日(土)
障害児保育の環境	8月 3日(土)
障害児の発達の援助	8月 3日(土)
家庭及び関係機関との連携	8月 10日(土)
障害児保育の指導計画、記録及び評価	8月 10日(土)



食育・アレルギー対応 担当 日隈

栄養に関する基礎知識	7月 28日(日)
食育計画の作成と活用	8月 4日(日)
保育所における食事の提供ガイドライン	8月 18日(日)
アレルギー疾患の理解	8月 4日(日)
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（エビベン®実習）	8月 18日(日)



マネジメント 担当 山田

マネジメントの理解 ※台風10号接近により、オンデマンド開催に変更	8月 31日(日)
リーダーシップ	9月 8日(日)
組織目標の設定	9月 8日(日)
人材育成	9月 15日(日)
働きやすい環境づくり	9月 15日(日)



聖隷こども発達支援センター「かるみあ」との交流

6月15日(土)、磐田キャンパス第1スポーツセンターで実施された、聖隷こども発達支援センター「かるみあ」の行事「親子で遊ぼう」に保育士養成課程2年生が「障がい児保育」の演習の一環として実践活動を行いました。

“かるみあ”さんでは、日々の療育に加えて保護者同士の縦・横のつながりも大切にしています。当日は磐田市スポーツ推進委員の皆様方の協力も得て、前半2・3歳児、後半4・5歳児が親子で一緒に体を動かす遊びやサーキット遊びに取り組み、楽しい時間を過ごしました。

最初は緊張した様子の学生でしたが、戸惑いながらもお子さんの気持ちや状況に合わせて関わろうとする姿(「波長合わせ」といいます)がみられ、「楽しいね」「面白いね」などと声をかけてお子さんの気持ちを育んでいました。ある学生のレポートには「子どもが色々なものに興味をもち、満面の笑みで活動してくれたので、私も積極的に子どもとかかわれた」とありました。楽しい体験の共有が学生の学びを後押しします。引き続き、現場の実践に触れながら子どもの理解を深めていきたいです。“かるみあ”の職員の皆様、磐田市スポーツ推進委員の皆様、どうもありがとうございました。



藤枝市立総合病院で壁面構成に取り組みました！

7月2日(火)、「ボランティアサークルさんさん」と入江ゼミでは、病院に通う、あるいは入院をしている子どもの環境構成のため、藤枝市立総合病院で活動を行いました。藤枝市立総合病院では、夏休みなどの長期休暇に入院を予定する子どもが多く、プレイルームの利用率高くなるそうです。そのため、「プレイルームを訪れる親子等に会話が生まれるきっかけに」というご要望をいただいていた。そこで、「夏」をテーマに季節を感じられる壁面構成を検討し、準備を進めました。

壁面は、ひまわりと朝顔を壁面構成の中心に朝顔のツルを毛糸で表現したり、花の部分に半紙を使用するなど、色と素材の違いに工夫をこらしました。また、子どもたちに探す喜びを味わってもらうために、カブトムシやてんとう虫を絵の中に隠してみました。また、中国の夏の花の代表である蓮華(ハス)を折り紙で制作し、生き生きとした夏らしさを表現しました。

藤枝市立総合病院の皆様には、今回の活動を温かく受け入れていただき大変感謝しております。藤枝市立総合病院看護部のブログやInstagramでも紹介していただき、学生たちの大きな励みになっています。サークルのメンバーである保育の学生はさらに実践の場を広げたいと話していました。今後の活動がますます楽しみです。



「保育実習報告会」の開催

7月24日、「保育実習報告会」を開催しました。保育実習指導における「保育実習報告会」は、学生が自分の実習を振り返り、発表の仕方を学ぶと同時に、実習に行かなかった施設について、他の実習生の話聞き情報共有をすることを大きな目的としています。今回の3年生の発表は、実習での悩みや喜びを視覚的に工夫しながら言葉にし、そのことによって経験が整理され、体験による学びが深まっていることを感じさせるものでした。参加した学生も「自分とは違う子どものへの対応に新しい発見があった」など、他学生の報告から学ぶことが多かったようです。また、1、2年生は先輩たちの体験を聞き、これから経験する保育実習について、具体的なイメージを持つことができました。保育士養成課程の学生にとって、同級生同士の横のつながりだけでなく、先輩と後輩の縦の関係をつくる貴重な機会ともなっています。



研究室訪問



川端 奈津子 准教授

障害のある子どもの「育つ・学ぶ・働く」

これまでと現在の研究について教えてください

かつては、障害児入所施設や児童相談所で勤務していました。当時から「発達障害」が疑われる子どもが一定数おり、「がまんしなさい」「みんなと同じようにしなさい」といった理解不足な指導によって生じる問題行動が2次障害として表面化していました。そこで、幼児期にこそ「専門性に富む支援を保育現場に落とし込める人材育成が必要」と考え、現場から保育者養成の職へ転向しました。

障害のある子どもの福祉(保育)を専門とする私は、インクルーシブな保育・教育・労働の実現にむけて、子どもを既存のシステムに合わせるのではなく、システムを多様な子どもたちに合わせて変えていく研究をしています。現在の主要なテーマは、継続研究である「一般企業における発達障害者の職場定着を支援するプログラム開発・改善(プログラム評価)」、共同研究として「保育現場における医療的ケア児の受け入れに関する知識、認識を高める研修および

養成段階での教授内容」に取り組んでいます。

きっかけは、社会がマイノリティ性のある人がいることを前提とした仕組みになっていないのに、障害のある人が社会の仕組みに合わせる努力をし続けなければならない状況に疑問を抱いたことでした。それは、当事者のケアラーである家族も同じでした。そして、障害の有無にかかわらず、誰もが人として幸せを追求する人生が送れる社会をつくりたいと考えるようになりました。私の家族に障害のある子どもがいたことも影響しているかもしれません。

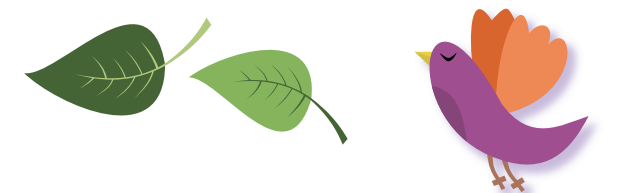
ゼミではどのようなことに取り組んでいますか？

いつも福祉(保育)領域には難題がいっぱいです。何らかの生活上の課題によって「育つ・学ぶ・働く」ことが困難な状況にある子どもや大人がいます。身近な社会問題に目を向け、学生一人ひとりの興味・関心を出発点として、みんなで話し合いながら個々のテーマを決めています。研究の過程では、国内の先駆的な実践現場の見学や、当事者や現場の実践家にインタビューを行うなどし、その結果と文献からの知見を組み合わせで解決策を探しながら卒業論文にまとめます。

そして何よりも、学ぶ学生自身が多様な他者を包摂(インクルージョン)しようとする価値観をもてる人になって欲しいと願っています。

今、関心のあることは何ですか？

社会のなかの「マジョリティはどう変わることができるのか」に関心をもっています。社会には、障害のほかにも、外国にルーツがある、生活困窮家庭、性的マイノリティなど多様な子どもがいます。マジョリティ中心の社会の仕組みを少しでも変えていくことに、残りの人生のなかで少しでも役に立てたらと考えています。



新任教員の紹介

北本 遼太

発達心理学、教育心理学
r-kitamoto@ssu.ac.jp

「関係性」から心や心の発達を考えています。研究のキーワードは「みんなでどうなるか(becoming)」です。「個人としてどうであるか(being)」ではなく、みんなで発達できる環境をどう作るかに関心を持っています。



神尾 玲子

保育内容(言葉・環境)、子育て支援
r-kamio@ssu.ac.jp

これまで障がい児保育に関わってきました。現在の子育て支援は、多岐にわたります。そんな中、ソーシャルワークの一端を担うことのできる保育士育成を目指しています。

